

特集：うま味発見100周年記念公開シンポジウム-2

うま味発見 100 周年に寄せて*

河村 洋二郎**
(大阪大学名誉教授)

うま味に関するわが国の研究は、うま味の味覚特性を科学的に解明することを目的としてうま味の研究会が発足した1982年に始まり、現在では26年が経過しました。この間、フォーラムやシンポジウムを開催するとともに、うま味の研究を手がけている世界各国の研究者の参加を得て第一回の国際シンポジウムを1985年10月ハワイにおいて、また、第二回の国際シンポジウムをイタリアのタオルミナにおいて1998年10月に開催しました。その後各分野において国際会議やシンポジウムなどが開催され、これら国際学会の成果は英文、和文で出版されてきました。このような経緯を経てうま味に関する関心は国内のみならず国際的にも高まりました。

この活動に先駆けて、もとは関西弁である「うま味」あるいは「うまい」という言葉を私が始めて使ったのは、UCLAの医学部に客員教授として赴任しアメリカで研究していた1960年前後の時期であり、当時の味覚生理や口腔生理学の国際会議においてありました。

このことは、1908年に池田菊苗博士が概念として提唱された第五の味である「うま味」が、生理学的な意味を含む学術用語として、学際的な世界に導入された初めての機会でありました。

そのときより数十年を経て、かつ池田博士によるうま味発見から100年を経た年に、うま味の発見から基本味覚としての概念の確立、食品科学の意義の解明、うま味の受容メカニズムの味覚シグナルまで幅広い話題をもって今日に至るまでの知識を集約したシンポジウムが開催されたことは、うま味研究会の当時の名前であるうま味の研究会初代会長として大変感慨深く感じ入るものであります。

現在はグローバル化の時代であり、時代の変化あるいは社会の考え方の変化、さらに政府が作っているいろいろな規制の変化など、変化するものは大変多く時代はめまぐるしく過ぎてゆきます。その中で、当日お集まりいただいたたくさんの方々が、うま味についての考え方をさらに新たにされることは、今後のわが国の継続的なうま味研究についての理解と発展を力づけるものと考えて大変喜ばしく思います。



写真1 1985年、ハワイの国際シンポジウムにて。

* Received June 11, 2008; Accepted July 5, 2008

** Prof. Emeritus, Yojiro Kawamura, M.D., D.M.S.

<著者紹介>

河村 洋二郎（かわむら ようじろう）氏略歴

1946年 大阪帝国大学医学部卒業

元甲子園大学学長、大阪大学名誉教授、日本味と匂学会名誉会員、
日本生理学会特別会員、医学博士、スイス・チューリッヒ大学名誉
医学博士

生理学に関する国際的貢献でスウェーデン王室・政府よりノーザン
スター勲章受章

